

第9回 中・韓・日環境創造型稲作技術国際会議のご案内

第9回を迎える中・日・韓の環境創造型稲作技術国際会議は食の安全や各国の環境創造型稲作の今後にとって大きな時代的転機を迎える重要な会議になることと思います。

2008年初頭に明らかになった中国の毒入り餃子事件は安さを求めて止まない日本の消費者に食の安全を海外に頼ることがどれほど危ういことか。また食の安全を掲げ、安さを武器にシェア拡大に突き進んできた一部の生活協同組合が欺瞞に満ちたものであったことが明らかになり、その営業方針の根本的見直し事態となりました。有機農業推進法が制定された日本ではこの事件を契機に、有機農業によって日本の農業を再建する動きが大きくなうねりになりつつあります。その運動が定着するかどうかはまさに技術の確立と加工業者を含めた消費者の意識改革がカギを握っており、食の安全と環境をまもるために有機農業を核とした環境保全型農業の推進という国民運動が課題になってきています。

韓国では有機農産物の供給過剰による価格低下に悩まされ、高品質の有機米生産技術の確立や流通・販売の拡大が大きなテーマになっており、水田生物の多様性を活かした有機稲作の技術確立と生き物調査による消費者の環境意識の向上が課題になっています。

中国では、毒入り餃子事件の真相が解明されないまま、オリンピック開催に向けた国家的事業が展開するなかで、食の安全が国際的な評価に晒され、有機農業を頂点とした農業再編が重要なテーマになっています。

こうしたなかで、2008年10月に韓国で開催されるラムサール条約締約国会議ではアジアの有機水田が広範な湿地環境を提供し、同時に安全で栄養価に富んだ主食を生産する場として活用されていることを「水田決議」として上程することがほぼ決定し、来年日本で開催される生物多様性締約国会議においても有機稲作が生物の多様性維持に有効であることが国際的に認められる情勢になってきました。

昨年に引き続き、慣行稲作から有機稲作に転換することによって環境と対立する農業から環境と共生する農業に転換できることを示す絶好の機会になっています。水田農業とりわけ有機稲作や生き物調査を通じた環境再生機能の国民的共有化をめざした取組みが、稲作経営を安定させ、稲作農民の社会的・歴史的役割を高めることになるのを確信し、多くみなさまがこの国際的運動に参加されることを願っております。

韓国における先進的な政策展開、日本の高い有機稲作技術と生き物調査・野鳥との共生をめざした取組み、中国の飛躍的な有機稲作の普及実態など交流のテーマは広く深いものになってきています。今回は下記の日程と内容で交流会議を開催する予定で準備中です。

つきましては、**6月5日(木)まで**にお申し込み頂きますようお願い致します。

主催： NPO法人民間稲作研究所

共催： NPO法人田んぼ、NPO生物多様性農業支援センター

後援： パルシステム連合会、(株)アレフ、(株)タイワ精機、(株)ゼネラルプレス (予定)

参加申込書

◆ 申込み 事務局 ファックス(0285-53-1512)。申込みは**6月5日まで**にお願い致します。

組織名

連絡先 (Tel/fax)

住所 〒

担当者

(部署・役職)

必ずパスポートの表紙の裏面(名前・顔写真・期間の明示された部分)のコピーと一緒にファックスして下さい。

1. 日程と内容

【第8回中・韓・日環境創造型稲作技術国際会議】

日付	時間	内容	備考
7月10日 (木)	9:10	成田空港発 中国国際航空(CA)422便	
	11:35	北京空港着	
	15:55	北京空港より長春空港へ(CA)1629便	
	17:35	長春空港着 専用バスにて	春誼貴賓楼 泊
	17:00	夕食懇談会	
7月11日 (金)	9:00	第9回中・韓・日環境創造型稲作技術会議 吉林省王守臣副省長あいさつ 報告1 吉林省有機農産品協会理事長 任克帛 報告2 NPO法人民間稲作研究所 稲葉光國 報告3 全羅南道親環境農業者協会会長 姜大寅 報告4 国際自然農法開発センター 原川達雄	専用バスにて移動 春誼貴賓楼 泊
	12:30	昼食 報告5 吉林省農業科学院水稻部長 長 三元 報告6 延辺有機稲作研究所長 金 吉洙 報告7 吉林省東福米水稻研究所長 劉 銳 報告8 吉林省有機農業者代表	
7月12日 (土)	9:00	吉林省東福米有機稲作水田及び加工工場視察	専用バスにて移動 図們大厦 泊
	14:00	吉林市内有機農家視察	
	17:30	懇親会	
7月12日 (土)	20:50	長春発 中国南方航空(CZ)6153便で延吉空港へ	専用バスにて移動
	21:40	延吉着 専用バスにて図們市へ	
7月13日 (日)	9:00	中朝国境視察	
	11:00	有機水田基地の生育診断と生き物調査	専用バスにて移動
	19:20	延吉発中国南方航空(CZ)6153便で北京空港21:30着	新北緯飯店 泊
7月14日 (月)	9:00	北京市内観光(天安門・故宮等)	専用バスにて移動
	13:30	北京より成田へ	
	17:50	成田着 解散	

- * 参加規模(予定): 韓国(20名)、日本(10名)、中国(150名内外)、
- * 使用言語は、韓国語、日本語、中国語の通訳が付きます。

2. 参加経費

4泊5日 宿泊費・旅費・交通費 195,000円 資料代他諸経費 5,000円 計200,000円

- * この金額は、為替レートとの現地での調整により少々変わる可能性があります。
- * 最終的な参加費は、申込みの後、ご案内致します。

3. 問い合わせ先:

NPO法人民間稲作研究所 mail oohashi@inasaku.or.tv TEL 0285-53-1133/FAX 0285-53-1512

4. お申込みを頂いた方には株式会社日本旅行東京西支店より詳しい案内が送付されます。

担当 高橋博明 Tel.03-3364-3701

注意:

- 渡航のためには、パスポートの残存期間が3ヶ月以上をお奨めします。最低残存期間が1ヶ月以上でなければ、中国への入国は拒否される可能性がありますので、ご確認下さい。